

■ 歓迎の挨拶

《国連アジア太平洋センターにおけるウェーサク式典の役割》



ダマコサジャーン学長博士、
マハチュロンコーンラージャウィタヤライ大学学長、
国連ウェーサク祝賀式典国際組織委員会名誉議長

「会場にお集まりの各国宗教代表者の皆様、各国政府・国連代表の皆様、仏教サンガの皆様、および仏教同志の皆様、ここに御来席のタイ国首相のサマック・ストラウウェート閣下と国連ESCAP代表のピーター・バンラエル閣下に歓迎の拍手をお願いします。

皆さん、ようこそこの国連ESCAP国際会議場にお出で下さいました。ここで国連ウェーサク祝賀式典が開かれるのは、1999年に国連においてウェーサクの日が国連の日として認められたからであります。その際に、国連ウェーサクの日を祝う場合には国連による適切な援助、国連本部や世界各地の国連施設の使用が認められました。ここは国連のアジア太平洋地区における代表施設です。従って、皆さんがここに招待されたのです。

タイにおいて2004年から5年連続で国連ウェーサク祝賀式典が開催され、そのうち2004年度だけはブッタモントンにおいてのみ開催されましたが、2005年からは毎年ここ国連ESCAP会議場においても開催されています。これは国連ESCAPの寛大な配慮によるものであり、ここに感謝申し上げたいと思います。

また、タイ政府やプラ・プッタチャーン長老会議長率いるタイ仏教サンガの御支援にも感謝いたします。タイ政府とタイ仏教サンガの御支援がなければ、過去5年間の国連ウェーサク祝賀式典を開催することはできなかったでしょう。

1998年にスリランカで開かれた国際仏教徒会議において全会一致でウェーサクの日を国連の日と定めるように国連に提案することが決定され、それに基づき国連総会において国連ウェーサクの日が定められました。ただし、国連本部や世界各地の国連施設を使用することは認められましたが、財政支援は含まれていませんでしたので、財政支援はタイ政府等に頼らなければなりません。今年はタイ政府に加えて、日本のインナートリップ霊友会インターナショナルからも支援を頂いております。皆さん、どうぞここにお越しのITRIの皆さんに歓迎の拍手をお願いします。

皆さんに申し上げたいことは、ウーサクの日は仏教徒社会にとって神聖で重要な日です。その重要な祝賀式典を国連の施設としてはニューヨークの国連本部とジュネーブの国連欧州本部に次いで大きな施設である、ここ国連ESCAPにおいて開催できることに感謝いたします。因みに申し上げますと、この国連アジア太平洋地域本部は世界でもいくつかある国連地域本部と比べますと、参加国数が53カ国に達する最大の地域本部です。

今年はUNDP国際組織委員会の決定により先にベトナムにおいて国連ウーサク祝賀式典が催されましたが、ベトナムの後に、ここに参加頂いている方もいらっしゃいます。国連からウーサクの日を国連の日と認めて貰っただけでなく、国連の施設を利用することも認められているがゆえに、ここバンコクの国連ESCAP会議場において一日だけとはいえウーサクの日をお祝いすることは国際的結束の象徴と言えましょう。

何故、ウーサクの日は仏教徒にとって神聖な日なのでしょう。それは仏陀の誕生・成道・涅槃をお祝いするものだからです。仏陀は生涯二度生まれました。一度目は仏暦が始まる80年前のウーサクの日人間シッダルータ王子として生まれ、二度目は菩提樹の下で悟りを開いた仏陀として生まれました。悟りを開いた二回目の誕生はすべての仏教徒にとって非常に重要です。

蓮の花は水の中に生まれ、水の中に育ちながら、水の上に穢れなき花を咲かせます。これと同じように、仏陀はこの世に生まれ育ちながら、この世に汚されることなく悟りを開きました。これは悟りを開いた者としての仏陀の心の清浄を物語っています。従って、仏教国では仏像に蓮の花を供え、仏像は蓮の花の上に座しているのです。

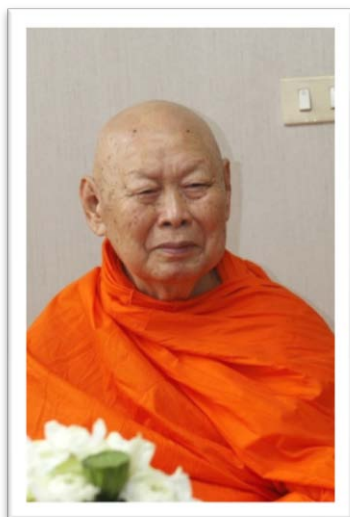
我々はウーサクの日をお祝いするとともに、自らも悟りを開くように努力しなければなりません。無智を克服すれば、自ずと叡智が生まれます。嫉妬を克服すれば、清浄な気持ちが生まれます。憎しみを克服すれば、慈悲の心が生まれます。皆さん、仏陀の歩まれた跡に従って、再度生まれ直して悟りの境地を開くよう努力しましょう。我々はそのためにここに来ているのです。

我々は違う世界に生きています。憎悪や不信の世界に生きています。しかし、我々仏教徒はひとつです。宗教の名の下に争いを起こしてはなりません。宗派が違ってても平和に暮らさなければなりません。協調の下で仏陀の教えに従って、憎悪に惑わされることなく悟りを開きましょう。それによって我々の心には仏陀の三つの特性が生まれるでしょう。すなわち、知恵と清浄と慈悲の心です。この三つの特性の精神を以って共にウーサク祭をお祝いしましょう。

■スピーチ②

国連ウェーサクの日

《ウェーサクの日のお祝いの言葉》



プラ・プッタチャーン大僧正、

タイの仏教サンガのタイ法王執行委員会議長

ウェーサクの日は仏教にとって最も重要な日です。お釈迦様はどれほど偉大でしょうか。ウェーサクの日も同じです。それゆえ、世界中の仏教徒はこの日に大きな意味を与え、また、皆が、今日という日は、お釈迦様が誕生され、悟りを開かれ、入滅された日であることを良く知っています。それは、6番目の月の満月のことでした。この特別の時に、すべての仏教徒は、すべての生き物に、切望に苦しむものは心を静めて理に適った解決策を見よ、という智慧の光を与えて下さったお釈迦様の思いやりとその存在を、心から思い起こします。お釈迦様の悟りが法(ダルマ)です。法の力は心を引きつけ、生活の仕方、国の大きな遺産となります。お釈迦様の涅槃は、世界が見てきた仏教の最大の光が消えたようです。何百万もの仏教徒の心が、お釈迦様の三重の満月の日の彼を記念して尊敬を示す日と考えています。なぜなら、お釈迦様の偉大さは人類の尊敬を受けるに値するからです。

歴史的に、タイではほとんどの王様が優れた方々で、国民の統治に仏教の教義を適用されました。加えて、王様達は王国内の平和を確保するために仏教を尊び援助されました。

国連は、お釈迦様の法が、何世紀もの間、広まり続けていることを理解して、1999年12月15日にウェーサクの日を国連の国際デーとして認知しました。このグローバル化の時代に、人類は人々の避難所として法を受け入れ法に頼ることを望んでいるのです。これは、お釈迦様に対する尊敬のもう一つの形です。

タイとタイ王国政府は、仏暦2550年のウェーサクの日を主催することを世界の仏教徒から委ねられました。今年の式典はサマック・スントラウエート首相が主催され、法の実践と仏教の普及を支援します。これは、国連ウェーサクの日を支援する最高のお供え物であります。

マハチュラロンコーン仏教大学が、タイの国連ESCAPホールで行われるこのアジア太平洋国際ウェーサクの日を組織するセンターです。

私は、重要なウェーサクの日の式典の実現を政府と共に心から嬉しく思っており、この式典に協力し助力を惜しまないすべての皆様にお祝いを申し上げたいと思います。

スピーチ③

国連ウェーサクの日のスピーチ

《より公正で、より公平で、より持続可能な社会という目標》

サマック・ストラウェート閣下、タイ王国首相



聖下、尊敬すべきサンガの皆様、尊師マハチュラロンコーン仏教大学学長様、事務局長様、閣下の皆様、卓越した参加者の皆様、紳士、淑女の皆様

仏暦 2551 年の国連ウェーサクの日に参加しておりますことを大変うれしく思っております。ウィサーカ・プージャすなわちウェーサクの日は、すべての仏教徒たちにとって最も意味深い日の一つです。この日に仏陀がお生まれになり、成道され、涅槃に入られたからです。この目出度い時にあたりタイ国民を代表して、尊敬すべきサンガの皆様そして世界各国からお出でになった参加者の皆様方に、敬意を表すとともに、心よりの歓迎の意を表したいと思います。

私たちがここバンコクの国連会議センターに集まっていることは、いかにもふさわしいことです。と申しますのも、自らに、自らの行動に、世界に心を配るようという仏陀のメッセージ、そして同情と平和に関する仏陀の教えは、まさしく国連のメッセージと重なるからです。仏陀と国連のメッセージが軌を一にすることを考え、1999 年 12 月の第 54 期国連総会は、ウェーサクの日を国連にとって重要な日であることを認める決議を採択しました。それ以来、ウェーサクの日は毎年 5 月にニューヨークの国連本部と世界各地の国連事務所でお祝いされております。

タイ王国は、名誉なことに、ウェーサクの日のお祝いと国際仏教徒会議を 4 年連続で主催してきました。今年にはベトナムが、国連ウェーサクの日を首都ハノイで 5 月 13 日から 17 日に初めて主催しました。ここに出席されている尊敬すべき代表団の方々や参加者の皆様の中には、ハノイでの会議に参加された方もおられると思います。ハノイでの会議は、実際面でも精神面でも成功であったと伝えられています。この機会を利用して、2008 年国連ウェーサクの日を組織的に行うことに成功されたことに対し、ベトナム社会主義共和国政府に対し賞賛の念を表したいと思います。

2500 年以上にわたって仏陀の教えは、時を越えて時代と関わり、今も関わり続けております。私たちの日常生活において五戒律、すなわち生命と財産と家族に対する敬意を大切に、話に対する責任を重んじ、食べ物と飲み物に心を配るようという五つの戒律は、社会的調和を作り出すのを助ける基本的な道徳律(モラル・コード)となっています。よく考えてみればすぐに分かることですが、五戒律は社会の責任あるメンバーが他の人々に対してどのようなふるまいをすべきかを明らかにしています。

国連ウェーサクの日を仏教徒としてお祝いをする一方で、私たちは仏教の理論と実践の双方を詳しく見ていく必要があります。仏教徒の力は仏陀の教えから来ているのですから、私たちは、仏陀のメッセージがどのようにしたら人々にとってより受け入れやすくなるのか、どのようにしたらより広く知られるようになるのか、どのようにしたら普遍的に応用していくことができるのかについて考える必要があります。それゆえ、長年続けられてきた対話と協力のこの集まりを、私は非常に高く評価しており、ここにお集まりの仏教指導者の皆様と仏教学者の皆様たちが知恵を集めて語られることから多くのことを学べることを期待しております。

紳士・淑女の皆様、

学識ある皆様方の前ですが、一言私なりの考えを言わせていただきたいと思います。仏教によれば、変化は自然に内在するものです。あらゆるものが絶えず変化の過程にあります。しかしながら、仏陀の「中庸の道」、すなわち適度さ、妥当性、自己認識そして知識に基づく適切な行動のための原理は、社会のあらゆる面に適用でき、あらゆる種類の行動に応用することができます。私たちが私たちの社会の適切な発展戦略を捜し求めるときに、「中庸の道」は、現在および未来の様々な難問に向かうにあたっての確固たる基礎を築くための適切なバランスを各段階で見つけることを助けてくれるでしょう。その取り組みは、また、道徳的価値を推し進めるので、社会の道徳の枠組みを強化するのを助けてくれます。人間の発展に対するこのような仏教の原理に鼓舞された全体的な取り組みを通して、私たちは、より公正で、より公平で、より持続可能な社会という目標を達することでしょう。

最後に、この会議に対する皆様方の貢献に対して感謝致したいと思います。また、すばらしい準備をしてくれたことに対し、マハチュラロンコーン仏教大学と組織委員会に感謝致します。

2008年国連ウェーサクの日のお祝いがあらゆる面で成功するように願っております。皆様方の努力が、平和と同情という仏陀のメッセージを全人類にさらに拡げていくことに役立つことを希望しております。



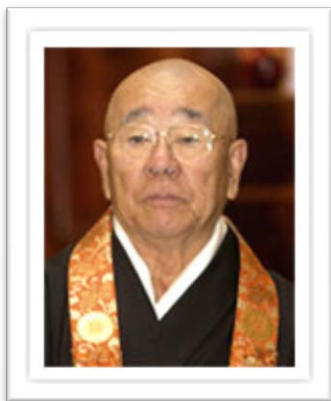
■ スピーチ ④

国連ウェーサクの日 - 基調講演

心にいつも光を

叡南覚範 世界連邦日本仏教徒協議会会長

本日、2008年アジア太平洋地区国連ウェーサクの日祝賀式典が開催されますことを心からお喜び申し上げます。タイ国政府、マハチュラロンコンラーチャウィタヤライ大学、インナートリップ霊友会インターナショナル、並びに本日の式典を準備くださったその他の団体の皆様に厚く御礼申し上げます。私はここにスピーチさせていただくことをとても光栄に思います。



わが国には、釈尊を父とし自らを「遺子」と呼んで、再度にわたり渡天を志しながらかなわず、嘆き悲しんだ明恵上人という高僧がおられました。

末法の世といわれますが、幸いに、私たち日本の仏教徒は釈尊につながる聖者をいただいてまいりました。A.D.607年、日本の釈尊と讃えられる聖徳太子は、摂政(天皇の代理)として中国の隋の煬帝(ようだい)に使者を派遣されました。

その国書の中に「日出る国の天子、この書を日没する国の天子」に送ると書かれていました。煬帝はたいそう激怒されたようですが、ほどなく事なきを得たように歴史は伝えています。聖徳太子は、仏教の説く平等の精神を率直にまた堂々と仰ったと私たちは考えています。

4月に訪米したチベット仏教の最高指導者ダライ・ラマ14世法皇は、アメリカの中央部に位置するミシガン大学で、9,000人の聴衆を前にして、世界の様々な紛争の一つの原因ともなっている宗教間の対立について、「全ての宗教は、平和、幸福、寛容など同じメッセージを持ち、その奥に神仏から賜った栄光と慈悲の心を合わせもつ力を秘めている」と語り、紛争当事者間の一層の対話の重要性を訴えたと報道されています。

チベットのラサの旧市街にあるジョカン寺(大昭寺)への道を、全身全霊の祈りをこめ「五体投地」をもって今日の一步明日の一步を進む、善男善女の姿が重なり合っただけに見えてまいります。

翻って考えますとき、わが国には古代から神ながらの道といい主としてシャーマンに依る祭事が行われていました。今日は神道と称されています。私たち日本民族の帰属する宗教神話であります。伊勢の地にその天照大神(太陽神)を迎えて大神宮を造営し、また8万社を数える日本全国の神社の総本宮としてすい崇敬され祀られています。

わが国を代表する12世紀の歌人西行法師は、伊勢の大神宮に顔つき“何ごとのおわしますかは知らねども、ただ忝けなさに涙こぼるる”と記帳しました。また終(つい)の棲家を吉野の山に求めて“願わくは花のもとにて春死なむ その如月の望月の頃”と詠みました。「その如月」とは日本に伝えられている釈尊入滅の、太陰暦2月15日を指しています。

次いで、仏教が渡来し、国家的に発展した時、奈良の地に東大寺が建立され、ご本尊として 16 メートルの大仏が安置されました。華嚴経ならびに大日経の教主・毘盧遮那菩薩坐像(Vairocana)であり、輝く太陽に由来し、光明遍照とも唱えられています。

さらに降りますと浄土三部経の仏である阿彌陀仏が出現します。サンスクリットの原名は Amitayus(無限の寿命を持つもの、無量寿) Amitabha(無限の光明をもつもの、無量光)であります。

このようにわが国の宗教の歴史をたどってみますと神仏のいずれも“光り輝くもの”“太陽”を象徴しなぞらえたものとして受容したように思われます。

聖徳太子の仰る「日出る国」日本とは、まさにここに源流するようにも考えられます。

法華経のなかの常不軽菩薩は、自分を石持て投げ打ち、害そうとする人々に対し、「あなたは仏になる人ですよ」と繰り返し常に呼びかけ幾たびも礼拝し続けました。

いま世界が行きとどまっている厚い壁である、人と人、民族と民族のもろもろの憎しみ、紛争をときほどく、一条の光明がここにあるように思われます。

日本を良く知る、ハワイ大学のジョージ・タナベ名誉教授は、「日本の仏教者が全人類に提供できる唯一のものは、おそらく憎しみなき世界への夢なのだろう」と最後の手がかりを示唆し私たちを励ましてくれています。

【註】

1) 表題のテーマ “心にいつも光を”は、1955 年に訪日された“三重苦の聖女”ヘレンケラー女史のお言葉からいただきました。

2) ジョージ・タナベ博士は、日系二世の宗教学者で、冒頭お話ししました明恵上人の研究者であり、その著“明恵”がハーバード大学より上梓されています。

■スピーチ⑤

2008年国連ウェーサクの日によせて

2008年5月18日国連アジア太平洋センター本会議場におけるスピーチ

此の度、ITRIが、国連のプロジェクトへの協力や、世界NGOや平和団体との共同事業が認められ、マハチュラロンコーンビジャラヤ大学のダマコサジャーン学長さんと共に、国連のウェーサク祝祭と国際仏教徒会議の開催を継続してきた実績が認められ、国連の経済社会理事会より国連特別協議資格が授与されたことに対し、心からお祝い申し上げますと共に、世界連邦日本仏教徒協議会として祝典に参加させていただいたことに感謝いたします。

さて世界の現状を見ますと、依然として紛争は治まらず、貧困・飢餓等の問題も憂慮すべき状況にあり、又環境問題も世界に於ける喫緊の事態となっております。かつて共産党の支配を崩壊させてビロード革命を達成したチェコ共和国のハヴエル前大統領は、21世紀を迎えるに当り世界の識者によるフォーラム2000という会議を開催しました。「次の千年間の人類の共通の価値とは何かを考えたい」というのがテーマでした。そうして「人種民族がその違いを越えて、夫々異なった文化・文明を認め合うグローバルな多面的な共同体意識しか人類を救うものはない」と述べられたのでした。この言葉の内には西欧的な単一的な宗教観による意識を変えなければならないことを促していると見ることはできるのではないかと思います。

ハヴエル前大統領は平和的で調和を重んじる仏教に非常な関心を持っておられて、2003年と2004年の二回、現在世界的な関心が寄せられているチベットのダライ・ラマ14世が会議に招かれて講演しております。2002年には私も招かれ、前大統領夫妻が施主となって修理工事が行われていたプラハにある聖アナ教会で、仏教による儀式を行わせてもらいました。このように古い形式にとらわれない、おおらかな思考をもった指導者こそ、今、世界に求められるところであると思います。

仏教精神はゆるやかではありますが、世界中に広く深く浸透しつつあると思われます。昨年は世界61ヶ国から仏教徒がこのタイ国にウェーサクの祝祭のために参集され、真に意義ある大会が開催されました。和の精神をもって自然との調和を図りつつ、世界の平和促進を目指す仏教徒の責務は益々大なりと云えましょう。これからもウェーサクの祝祭を基点として世界平和に向かって前進する為の大きな力となることを祈念して止みません。

世界連邦日本仏教徒協議会会長
叡南覚範

■スピーチ⑥



《情報コミュニケーション技術と仏教の教え》

アブドゥル・ワヒード・カーン／ 国連教育科学文化機関(UNESCO)、

ユネスコ情報・コミュニケーション局副事務局長

2008年(仏暦2551年)国連ウェーサクの日のお祝い

タイ国バンコク

ご列席の皆様、
著名なゲストの皆様



話を始めさせていただく前に、まず、お隣の国、ミャンマーと中国の人々に敬意の念を表したいと思います。二つの出来事は場所も離れお互いに関係はないのですが、ミャンマーはサイクロン・ナルギスという、中国は四川大地震という未曾有の災害に襲われ、今もその後遺症と戦っています。このようなすさまじい荒廃を前に思わずひるんでしまいます。しかし、私たちの祈りは、苦しんでいる全ての人々に、愛する人たちを失った全ての人々に、そしてこの大きな自然災害から立ち直ろうと戦っている全ての人々に必ず届くことでしょう。

* * *

今日、ここにこうして皆様とウェーサクの日をお祝いできることをありがたく思います。平和、同情、寛容という仏陀のメッセージは、仏陀が成道した2500年前よりも今日の世界によりいっそう大きな意味を持っています。

仏陀がお説きになったことが、今日、平和という言葉で私たちが言い表そうとすることと重なるところがある、ということは重要です。私たちが今なし遂げようと努力していることは——平和という言葉が持つ力を土台にして——平和を実践することです。

私たちは平和を実践しようと努力していますが、なかなか成功しません。私たちは、絶えず新たな戦略と戦術を考え、この非常に達しがたい目標に到達しようとしています。もし平和が至高のものとして私たちの世界を治めるとしたら、世界がどのようなものとなるかは、想像することさえ出来ません。しかし、より良い世界についてのこのビジョンを私たちの心から無くしてはなりません。というのも、もし私たちがこのビジョンを失ってしまえば、平和という目標も失ってしまうからです。社会的ネットワーク・ウェブサイトのフェイスブック(Facebook)では、20 万人以上の人々が世界平和の達成に焦点を当てているいくつかのグループに署名をしています。

これは大変な事実とは言えないかもしれませんが、この事実は、若者にとって平和はホットな話題だ、ということをお話しています。そしてこのことは、世界により大きな調和と寛容と平和をもたらそうというユネスコの努力と、情報コミュニケーション技術——短く I-C-T's と呼ばれることが多い——とを結びつけようとするユネスコの最新の努力に目を向けさせることとなります。ユネスコのこの努力の中で、I-C-T's はますます多くの目覚ましい役割を果たしつつあります。

I-C-T's 世界の語彙の中で、平和はウィルスのように広がろうとしています。

これは何を意味しているのでしょうか。これから説明させていただきます・・・

昨年 9 月、携帯電話のカメラが静かにカシャと鳴って、ヤンゴンに住む反政府側のリーダー、アウン・サン・スーチーの家の門のところに集まった僧たちを記録しました。その写真は、メールに添付されて活動家たちのもとに送付され、活動家たちはそれをインターネットの掲示板などに載せました。そして多くの人たちが、記事やビデオと共にこの写真を自分たちの毎日のブログで話題にしました。

ニュース・ウェブサイトやプロのメディアが経営しているウェブサイトは様々な話題を取り上げ、まるでウィルスのように、それらの話題は世界中に広まります。すぐに何百万人もの人々の目がミャンマーに注がれ、人々にとって受け入れがたい政策に反対して僧たちが先頭に立って行った抗議活動に対するミャンマー政府の対応を目にすることとなりました。

世界はじっと見ていたのです。

この話は決して特別な話ではありません。インターネットと携帯電話は世界中に情報を広めるための鍵となる道具となっており、たとえ厳しい統制で日常が秩序立てられているところであっても、ある程度の表現の自由が存在できるようになっています。

I-C-T's はメディアのこれまでの状況に変革を起こし、メディアの根本的役割、すなわち目撃者、番犬、そして人々がコミュニケーションをするための道具というメディアの根本的役割をメディアが果たすのを助けています。単純でたいへん手ごろな価格で利用できるこれらの道具は、普通の市民に力を与え、彼らが自分たちの周りの世界をドキュメントとして取り上げ、その情報を国境を越えて人々と共有することを可能にしています。

市民ジャーナリズムの役割に疑問を投げかける人たちもいますが、ニュースを集め情報を広めるというプロセスにこのように多くの人々が参加できるようになり、様々な利益がもたらされているのですから、これを生かしていかなければなりません。

プロのジャーナリストたちにとって、今ほどその力量を厳しい目で見られたことはありません。彼らが最も果敢に取り組まなければならないことは、様々なニュースソースから集められた事実、とりわけ携帯電話のカメラで装備

を整えた市民から集められた事実をパッチワークのように組み合わせることによって、情報内容の正確さを保証し、ニュースとして取り上げた様々な出来事に対し、肝心かなめといえる全体の中でのその出来事の位置付け、納得しうる文脈を提供することです。

こうしたことが平和とどのような関係があるのでしょうか。

事実がきちんと明らかにされる時、逮捕される恐れなどなしに公平無私の態度で提供される情報を全て入手することが出来る時、異なる社会がお互いに共通の土台を探りその違いを解決しようとする、ということは実際にこれまで何度もありました。敵対関係を作り出し、誤解を生み出し、最終的には暴力にまで行き着いてしまうのは、事実を操作するためであり、ある特定のグループに利益を与える政策を確保しようと真実をゆがめてしまうためです。

相互に結びついた現代世界においては、世界規模で流布した情報は、世界中の人々の意見を喚起する可能性を持つので、誰の意見にも耳を傾けない最も手ごわい独裁者にさえも影響を与える力を持っています。

また、I-C-T's に関し、次のような事実があります。インターネット検索エンジンのグーグルに仏教(Buddhism)という言葉を入力すると、1850 万件のヒットがあります。そうなのです、1800 万件以上なのです。適切な仏教用語を使えば、仏教をグーグルで様々な検索が出来るのです。ヒットするものの中には、同一のウェブサイトの中の単語がヒットしているだけ、という場合もありますが、たいていとは言わないまでも、多くのヒットはそれなりに独特なものです。

例えば、私の母校、ウィスコンシン大学には仏教研究グループのサイトがあります。瞑想と仏教に関するサイトもあります。仏教について討論するサイトもありますし、仏教用具をオンラインで買うことが出来るサイトもあります。このように、検索する価値のあるサイトが 1800 万もあるのです。

このような活動やエネルギーを平和の名前でどのように役立てようとしているのでしょうか。

それを完全に役立てることはおそらく不可能でしょう。しかし、今あるものの中の最良のものを集め、新しい要素を養成して促進し、I-C-T's の力を利用するならば、それが可能となることは明らかです。ユネスコでは今まさにそれに取り組んでおり、平和のカネットワーク(the Power of Peace Network)を育てつつあります。

平和のカネットワークは、世界中の若者たちに現代の情報コミュニケーション技術を道具として革新的な形で使用してもらい彼らの必要に応えようとする、ユネスコが発案し率先して行っている活動です。

その目的は、私たちにとって本当に問題であることに関して、幅広く多様な文化的視点からより良いコミュニケーションを行うことです。それは、インターネットやほかの情報源を通してすでに利用できるものをそのまま真似るとか、そのようなものと競争する、というものではありません。それは、今日ここに参加されているような様々なNGO組織や国際的援助機関や基金や団体や協会、そして革新的な放送会社やインターネット企業家や実践活動家などをパートナーとし、彼らと共に活動し、彼らを通して活動していく、というものです。

メディアなどと共にこのような努力を行う理由はきわめて簡単です。メディアは私たちの目的を成就するプロセスを促進するのに最も態勢が整っているからです。私はここでメディアという言葉を非常に幅広い意味で使っています。テレビやラジオなどの放送から新聞や雑誌などの紙媒体、さらにはインターネットや携帯電話も含んでメディアという言葉を使っております。

多様なメディアのうちどのメディアであれ、人々はメディアを使って情報にアクセスすることが出来、ユネスコは平和についての対話に基づいた平和の文化を推進するというテーマをメディアを使って強化することが出来ます。ユネスコが平和のカネットワークということを考え始めた時、私たちは指針となる原理の多くをまず、仏陀の教えを通して長年にわたり人々が真理として考え、真理として証明されているものから採りました。

昨年 1 月に、ユネスコはインドネシアのバリでグローバル・フォーラムを開催しました。メディア界のリーダーたちや、公共部門、民間部門双方の著名な思索家や実践活動家が集まり、メディアと I-C-T's の力を情報とコミュニケーションを通しての平和建設というコンセプトにどのように結びつけたらよいかについて話し合いました。

その討論により、私たちはメディアの持つ独自の役割について、特に、社会的に周辺に追いやられている人々の声を増幅する役割についての理解を深めました。新しい科学技術により、今まで以上に効率的に人々がメディアを使えるようになったので、ますます彼らの声を大きく伝えることが出来るようになったのです。

例えば、お隣のカンボジアには、首都プノンペンからのラジオ番組の中に、プロデューサーが携帯電話を持って田舎に赴き、その田舎に住む人がその携帯電話を通して大臣に直接質問することが出来る電話質問コーナーがあるものがあります。これは遠くに住む人々に対して説明責任が果たされる例であり、ほんの数年前までは聞いたこともなかったことです。

地域社会が、争いのない繁栄した持続可能な社会を作る機会を彼らのリーダーたちに要求する力を持つことは、平和への道において必要な一歩です。

もし情報に多様な流れがあり対話を促す声が複数あるなら、どの様なことが起きるかについて考えてみて下さい。社会を孤立させて、真実を知らせないようにしたり、指導者たちに様々な要求が出来ないようにしたり、さらには変化を起こす計画を立てることが出来ないようにすることは、今までとは比べ物にならないほど難しくなることでしょう。

ユネスコの情報・コミュニケーション局では、ジャーナリストが新しいテクノロジーを生かす手助けをしていますが、私たちはまた、普通の市民がメディアに関与する割合が驚くほど増えていることに気付いており、そのような人々が参加できるプロジェクトを立ち上げています。

そのプロジェクトにおいて私たちは、普通の人たちの声を正当化したいという思いでメディアに参加したいと望んでいる市民たちにプロのジャーナリストの報道技術と倫理を教え訓練しており、また、より広範な人々をつながりを持ちたいと考えてフォーラムを開催しています。

メディアの利用者たちにメディアを使いこなす力を与えることは、メディアの風景を豊かにします。

利用者に立脚するメディアは、政府が所有するメディアや商業主義的に運営されるメディアとは別の選択肢となります。

利用者に立脚するメディアは、社会のあらゆる部門からの参加と貢献を促すので、本流のメディア内に多様性と議論を喚起する非常に大きな力を持っているのです。

ユネスコの目的は、メディアに直接貢献できる様々な方法に多くの人々が慣れ、使いこなせるようになることです。ブログとオンラインによる公開討論は、話し合いを促し、情報と意見を広める方法となっています。

情報コミュニケーション技術の革新により、「多くの人々が同時に対話して」相互の理解を深め平和を推進していく本当の機会が生まれたのです。

2500 年以上前、仏陀は、異なる民族や種族が平和に共存することが当たり前である世界を建設するように私たちを励ましました。その夢を私たちはまだ実現できていません。しかし、今日、私たちの手にはこの活動を続けていくための新しい道具があります。私たちはこうした新しい道具を賢明に使いこなしていかなければなりません。平和に代わる選択肢は受け入れがたいのですから。

ありがとうございます。

■ スピーチ⑦

■ 《仏の教えに基づいた教育の実践》

■ 松本正二、ITRI 副会長

現代の教育は人々を職場や企業向けに養成はしますが、人生のさまざまなチャレンジに感性豊かで、寛容かつ主体的で力強い人間として対応できるように必要な知識を与えてくれません。価値観に関する知識は、われわれが人間として成長するのに重要な役割を果たすと確信しております。

今日の世界では、人や団体が、憎しみ、暴力や復讐に完全に取り付かれていることがよくあり、自分の意見以外のものを聞く耳さえ持たないとか自分の思想以外にも正しいものがあることさえ信じないほどです。このようなことは、その人の感情や気持ちが思いやりにかけていることに原因があると思います。



従って、このような人々が増えないようにすることや最大限に制限する方法を工夫することが大切です。この問題に対処するための第一の手段は、子供のときから適切な価値観に基づいた教育の理念を導入することです。学校が価値観に基づいた教育を実施するための最もふさわしい場所です。世界的に受け入れられるカリキュラムを導入することによ

って思いやりのある人間を育成する教育を実践します。

私たちは落ち着いた心性を持つバランスの取れた心を作り上げるのに大いに役立つ価値観を与えるための豊かな教育を提唱します。

その為には理論と実際の適切な組み合わせによってその目標を達成しようとする総合的カリキュラムの開発によって達成せねばならないと考えます。

しっかりした価値観に基づいた教育の本義を広く普及させ、正の行動上の変化をもたらすことができれば、真の意味での経済・社会の変革につながると私たちが確信しております。

ITRI では、人が寛容で、愛情や思いやりのある人間になるために、一人一人が自分のアイデンティティーの障壁を取り除き、より崇高な人生の目標の達成向けに専心する必要があると思います。その過程において私たちは自分自身向けに感受性を開発し、お互いのアイデンティティー、ニーズや要求を尊敬し合うことも必要でしょう。個人が自分自身について知り、その潜在能力を発見するとき初めて社会に役立つのであると考えます。

知覚における変化の主体はあくまでも個人であるため、一人一人が社会に対し大いに貢献しなければならないことについて深く自覚するように各人を変える必要があります。そうすれば、国連のミレニアム開発目標も意義を持つようになります。

国連がその所属機関やユース・サミットを通じて青年期におけるストレス要因の解消や若者のエネルギーを生産的な分野に導くように努めてきました。国連は社会的に有意義なプログラムを企画・実施する実績を持つ青年を育てるためにも取り組んできました。

ITRI の精神面や指導者育成面での役割は国連のこれらの目標と一致しています。この「国連のウェーサクの日祝賀式典」に際し、非政府組織(NGO)として私たちはこれらの目標達成に向けて再び献納することを認識し、今の騒然とした時代において苦悩を軽減するために仏教の理念を実践する必要性を認識しています。

私たちの組織はささやかではありますが、このような知識をより多くの人々に伝達させるための独自の教育手段を開発していく所存です。

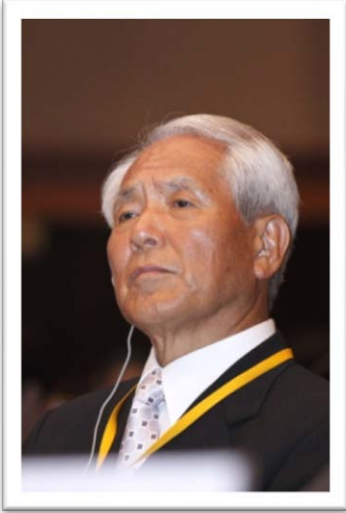
若者の総合的健康を促進させ、彼らを活気付けるために精神的教育の分野に力を入れ続けて参りたい所存です。

■スピーチ⑧

■感謝のスピーチ

浅川重美、ITRI 日本センター会長

《仏教を通してめざすもの》



本日は国連アジア太平洋センターにて盛大なウェーサクの式典が行われ、たくさんの方から大きな支持を得られましたことを本当に感謝申し上げます。

1999年に国連にお釈迦様の生誕祭が承認され、2004年に世界で初めて仏教徒の世界会議がタイで開催されました。これで5回目となりますが、すべて大きな成果をあげており私たちも参加させていただいたことに感謝しております。

そして、本日学長様がウェーサク式典の責任者としてタイ国から指名されたことも大変うれしくおもいました。

サマック首相がすばらしい仏教徒であり、また仏教の教えのもとに国を治めておられることを深く感激いたしました。これからもこの国の方々がますます幸せとなり、この国がますますの発展を遂げることを確信いたしました。日本もこのようになってほしいとつくづく思いました。

そしてこの会場にはITRIのNGOの特別協議資格所得祝賀のため世界から多くの方々に来て頂き、温かいお言葉を頂きまして、本当に感謝申し上げます。

タイ政府、国民の皆様、タイサンガ大僧正、マハチュラロンコーン大学の学長、世界連邦日本仏教と協議会の叡南先生、ユネスコのカーン博士、インド政府のミシュラ博士、メーチャー・サンサニーさんほか皆様に深く感謝申し上げます。

日本からも350名ものの方々に来ていただき会を盛り上げて頂き大変うれしく感じています。

ITRIは世界平和の実現をめざして、歩んでいきたいと思っています。

世界平和のもとには家庭、家庭のもとには夫婦、夫婦のもとにはそれぞれご先祖があります。お互いに尊敬しあい、感謝しあい、信頼しあう。そのことを自分の周りの方々に伝えさせていただく。またそれを子供や孫まで伝えてゆく。

これが大きな世界平和の第一歩ではないかと思えます。

これからもお釈迦様の教えを習得しながら、修行しながら、また実生活に生かしながら毎日感謝の心を忘れずに、この仏教の教えを広めてゆくことをここで誓わせて頂きます。

本当にありがとうございました。